

TKC会員関与先様限定ホームページサービス
オンライン決済にも対応！BEST ホームページのご紹介サイトはこちら
<https://www.tkc.imobile.co.jp/>



税理士法人トップ
所長 岩瀬貴之

静岡県沼津市千本緑町2丁目10番地の1



Series ウェブ戦略が会社を変える～BEST ホームページ 活用事例

取材・監修 アイ・モバイル株式会社

顧客の声に柔軟に応える

――事業内容は？――

鈴木 静岡県東部を中心に、亜鉛メッキやステンレスなどの鋼材を主力商品として取り扱ってきた総合商社です。近年、お客さまからのニーズにお応えする形で、鋼材に限らず住宅設備や電材・工具・空調資材などあらゆる商品をお届けしています。とくに住宅設備のウエートが高まってきています。

――強みは？――

鈴木 堅実な経営と真摯な仕事です。おかげさまで父の代で創業した会社も70周年を迎えました。時代が大きく変化するなかで生き残れたのは、将来のマーケットがどのようなに変化するのかを常に見据え、お客さまの声に柔軟に応え続けてきたからにほかなりません。

また、15年来のお付き合いである税理士法人トップさんの指導のもと、TKCシステムを活用した経営数値の見える化に取り組んでいます。信頼性の高いシステムを使うことで、年間計画や5カ年計画など長期的な視点での経営ができていることが当社の自慢です。これは取引先

ってもらうためにはHPの存在が大きいと感じています。与信チェックの一環としてHPを確認されることもあるでしょうから、おろそかにしてはいけない発信ツールです。

――HPを刷新する際に大切にしたいことは？――

鈴木 HPと現実との間で、情報やイメージのギャップが生じないように「ありのまま」をとにかく大切にしました。写真をできるだけ多く掲載したのも、社風や普段の様子を知っていた



◎三共鋼材株式会社 空調機器や建設資材等の仕入れ・販売業

低コストで信頼高めるHPに！百年企業目指す次世代戦略



鋼材をはじめ住宅設備や工具など、さまざまな資材を扱う三共鋼材株式会社は、創業70年の総合商社だ。鈴木力社長は、「お客さまからの声にお応えすること」がモットーだと語る。AI時代だからこそ人になにしかできない対話力が問われているいま、欠かせないのが人材戦略。人手不足が深刻化し、働き方改革が必須の時代となるなか、鈴木社長はHPを上手に活用した生き残り戦略を描いている。

さまからの信頼にもつながっていると思います。

――今後、注力すべきことは？――



しっかりと社員のことを考えた経営を実践

鈴木 社員に「三共鋼材株式会社で働きたい」と思ってもらえるよう、賃金体系や働き方を整備していくことです。私が社長就任当初は、売り上げ拡大ばかりに固執していました。ですが近年は、人材確保という視点から働きやすい環境が整っていないければ、どんなビジネスも成り立たないと感じています。おかげさまで現時点では、人材不足を感じることはそれほどありません。ただ、いざ「人を採用したい」と思ったときに、働き手から選ばれる環境がなければ苦労するのは目に見えています。しっかりと社員のことを考えた経営を続けていくべきです。

HPに自社の姿を映す

――HP刷新の狙いは？――

鈴木 以前から、税理士法人トップさんのご紹介で、アイ・モバイル社が提供するHPサービスを利用していました。社会的に「働きやすさ」が訴求されるなか、もっと社内リアルな姿を発信する場であればいいなと考える、リニューアルを決意しました。また、取引先を広げるうえでもHPは必須です。遠方の仕入先に、当社のことを知

いメーカーを一覧で記載しています。これは、お客さまが必要な商品の詳細をメーカーHPで確認する際に、当社のHPをインデックスとして活用いただきたいという思いからです。

――採用情報ページが充実していますね。――

鈴木 おかげさまで現在、人材採用には苦労していませんが、布石はしっかり打っておきたいと考えました。そのために、社内の様子が分かる写真とともに、職種ごとに社員のインタビューを掲載しています。インタビューでは、私はできるだけ関与せず、社員に思ったままを話してもらいました。応募者を増やすために、現実以上に良く見せようとすると、採用後にミスマッチにつながるリスクがあるので、採用ページでも「ありのまま」を意識しました。

――制作において感じたことはありますか。――

鈴木 以前使っていたシステムよりも見やすく、デザインの選択肢が増えたと感じています。分かりやすく使いやすいHPにしたいという当社の思いをくみ取り、デザインや構成もあらかじめ提案してもらえたのでスム

ーズにリニューアルできました。

HPは生き物、定期的な更新を

――今後の活用はどのように？――

鈴木 HPは生き物であり、情報をこまめに更新しなければなりません。例えば、展示会を開催したら、開催後に御礼のメッセージをHPに掲載することで、当社の取り組みや姿勢を発信しています。コツコツと更新を続けることで、会社の雰囲気やHPからもにじみ出て、採用においても応募者の理解につながるのではないのでしょうか。

――運用面での課題は？――

鈴木 定期的に更新したい反面社内でのHP担当者が「何を発信すればいいのか」と迷うこともあるようです。しかし、「花壇の花がきれいに咲きました」という内容でも良いし、とにかくアップすることが重要だと思っています。たとえ文章が思いつかなくても、写真だけでもアップしていこうと担当者に声をかけています。今のHPはスマートフォンで撮影した写真を気軽にアップできますから、更新頻度を高めた当社の意向にマッチしていると感じています。

（取材協力・税理士法人トップ）